

鹿角地域 【目指す姿】北東北のど真ん中！から世界遺産・国立公園の魅力を発信！ ～90分圏内で秋田・青森・岩手を楽しむ～

※評価方法：理想とする姿を目指した取組が進んでいるかなどの定性的評価

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	世界文化遺産の「縄文遺跡群」をセールスポイントとした広域連携	(1)体験型観光コンテンツの開発 (2)広域連携による観光誘客	(1)体験型観光コンテンツの開発 ①JOMON体感事業によるコンテンツ開発等(鹿角市) ・縄文食メニュー(R3) ・AR・VR体感メニュー(R4) (2)広域連携等による観光誘客 ①深緑から紅葉までぐるっと十和田八幡平観光キャンペーン(盛岡広域振興局と共同) ・PR用チラシ:8,000部 ・キャンペーン期間(7/20～11/30) ②御所野・大湯・是川・縄文周遊ルートの確立(岩手県北広域振興局と青森県三八地域県民局と共同) ・縄文周遊マップ作成:R5から大きな変更点が無かったため、在庫調整で対応。 ・スタンプラリー:7/27～11/30 ③秋田の世界文化遺産デジタルスタンプラリー ・大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡を巡るデジタルスタンプラリーを開催 ・7/27～9/29 ・実施内容:2遺跡を巡った方に景品プレゼント ・参加人数:300人 ④世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」PRフェア ・北秋田地域振興局と共催し、青森県三八地域県民局と連携して開催 ・:8/26～9/1 駅たびコンシェルジュ仙台で開催(三八地域県民局の開催期間:8/19～8/25) ・実施内容:パネル展示、動画放映、遺跡講座、物産販売等を実施 ・来場者数:2,906人 ⑤白神山地とブナ帯文化連携事業(世界遺産に係る県北3地域振興局連携事業) ・実施内容:白神山地と縄文文化等を組み合わせた世界遺産パネル展 ・開催場所:道の駅ふたつ ・開催期間:①7/13～7/15、②10/12～10/14 ・道の駅来場者数:①18,825人、②23,151人 ⑥ボランティアガイド交流研修(伊勢堂岱遺跡・御所野遺跡と合同) ・ボランティアガイドが一堂に会し、施設ガイド体験や意見交換を行った ・開催場所:大湯ストーンサークル館 ・開催日時:11/14 13:00～15:30 ・参集範囲:大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡、御所野遺跡のボランティアガイド ・参加者数:21人(関係者含む)	B	◎大湯環状列石(ストーンサークル館)の入込客数は対前年比で減少傾向にあり、世界遺産登録効果が薄れてきている。引き続き縄文遺跡群を中心とした誘客コンテンツの造成やPRが課題となっている。 →世界遺産をフックとした仙台圏からの誘客促進のため、北秋田地域振興局と連携し、仙台市縄文ガイダンス施設において、鹿角・北秋田地域観光PRを含めた大湯環状列石・伊勢堂岱遺跡等講座を開催する。また、広域連携をしている遺跡同士が双方でPR展示を実施するなど、スケールメリットを生かした取組を引き続き展開する。
2	「鹿角でSDGsを学ぶ！」をテーマにした教育旅行の誘致	(1)周辺自治体と連携した教育旅行の誘致・PR	(1)鹿角の強みを生かしたSDGs学習メニューの開発(鹿角地域振興局) ①北海道及び北東北の中学校の先生を対象にSDGsに関するアンケート調査を実施(R5) ・324校中110校から回答 ②SDGs学習プログラムの作成 ・SDGs学習の導入用の教材として作成 (2)周辺自治体と連携した教育旅行の誘致・PR ①学校・旅行会社等を対象に鹿角地域の素材を売り込むキャラバン等を実施(鹿角市・小坂町・かつのDMOと共同) (3)周辺自治体と連携した教育旅行の誘致・PR ①学校・旅行会社等を対象に鹿角地域の素材を売り込むキャラバン等に参加・実施 ・7.10～12 あきた広域観光誘客推進協議会主催 北海道キャラバン 鹿角地域振興局、鹿角市、小坂町、(株)かつの観光物産公社、小坂まちづくり(株)、史跡尾去沢鉱山が参加し、札幌市立の中学校96校を訪問 ・7.18 東北観光推進機構主催 東北教育旅行セミナー(東京) 関東方面への新規開拓を目指し、鹿角地域振興局、小坂町が参加 ・8.28 秋田県観光連盟主催 秋田県教育旅行誘致説明会 鹿角地域振興局、(株)かつの観光物産公社、小坂まちづくり(株)が参加 札幌市内の中学校教員や旅行会社への売り込みを実施 ・12.3～5 鹿角広域観光推進会議主催 北海道キャラバン 函館市・北斗市の公立小中学校30校、旅行会社5社を訪問 鹿角広域観光推進会議(鹿角地域振興局・鹿角市・小坂町)、かつのDMOが参加 ②受入施設施設、教育関係者等による意見交換会を実施(鹿角地域振興局) ・年2回(9月、3月)開催し、管内の受入状況の共有、次年度以降の売込み先の協議を実施	B	◎鹿角地域への来訪実績の多い北海道の学校の中でも、旅費の高騰により旅行先や行程を変更する学校が出てきており、今後は同地域からの来訪数が減少することが想定される。 →関東方面を視野に入れた売り込み先の新規開拓や既存の学習プログラム・体験コンテンツの磨き上げを行う。

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
3	「十和田八幡平国立公園」における新たな魅力創造による誘客促進	(1)八幡平温泉郷エリア (2)十和田湖「西湖畔」エリア (3)十和田湖「和井内」エリア	(1)八幡平温泉郷エリア ①アドベンチャーツーリズムの推進 ・八幡平ビジターセンター(鹿角市)でe-bikeやE-MTBを活用したツアーを実施 ②八幡平二次アクセス整備検討 ・八幡平山頂地区において、鹿角市を中心にNPO法人による自家用有償旅客運送制度の運行を開始 (2)十和田湖「西湖畔」エリア ①アクティビティ及びワーケーションの拠点となる十和田ふるさとセンターの整備(小坂町) (3)十和田湖「和井内」エリア ①「和井内」地区道の駅の周辺整備(小坂町) ・R6年10月に道の駅十和田湖オープン ②ヒメマスによる誘客促進(小坂町) ・道の駅十和田湖でのヒメマスに関する常設展示を実施 ③鹿角・小坂二次アクセス整備検討 ・鹿角花輪駅と十和田湖をハブとしたデマンド型の観光周遊乗合タクシーを運行予定	B	◎十和田八幡平国立公園では、入込客数が対前年比で回復傾向だが、コロナ禍前の数値には回復しておらず、誘客対策が課題となっている。 →八幡平スキー場でのスノードライブや十和田湖でのホビーなどの新たなアクティビティの推進や、道の駅十和田湖を加えたモデルコースの設定、鹿角地域全般における二次アクセスの整備を引き続き検討する。

北秋田地域 【目指す姿】リアル“な”体験から リアル“を”体験する奥秋田への誘い ～来なくとも楽しめる 来たらもっと楽しめる 大館・北秋田～

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	SDGsに深く関わるマタギ文化を学べるコンテンツづくり	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 (1)マタギ体験の提供(秋田犬ツーリズム) ①マタギと一緒に山を歩くインバウンド向けロングトレイル ・観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」に係る商品造成としてモニターツアーを実施。元ATTAイベントマネージャーをはじめ旅行エージェントと共にトレッキングを行った。 ・「みちのく潮風トレイル」をはじめとしたロングトレイルコンテンツを海外向けに販売している岩手県の旅行会社のエージェント兼ガイド人材を招へいしFAMツアーを実施。ショートトレイルの商品磨き上げと販路開拓に向けて高評価をいただいた。 ・環境省「八幡平周辺地域におけるアドベンチャートレイル造成推進業務」にてトレイルに係る調査を実施。ルートの現地踏査やマタギへのヒアリングによりマタギに関わる自然・文化資源の情報を整理した。	C	◎昨年課題として挙げていた、「安の滝」へ向かう林道の崩落や、仙北市玉川温泉周辺におけるクマ被害防止のための入林禁止措置は依然として状況が改善されていない。 →ショートトレイルの商品磨き上げを中心に、ロングトレイルの代替ルート開拓を引き続き行っていく。 ◎欧米のアドベンチャーツーリズム層にマタギ文化の価値や、生活の中で培われたサステナビリティ概念をどのように伝えるか等、体験の質を向上させる必要がある。 →観光庁のモデル観光地に指定された八幡平DMOや周辺のDMO、アドベンチャートラベルに関する調査を実施する環境省と引き続き連携して磨き上げを行う。また、AdventureWeek東北2025にてマタギ体験が実施されることとなり、事前視察によるフィードバックを反映させながら販売に繋げるための準備を行っていく。
2	伊勢堂岱遺跡を核とした縄文文化を体験できるコンテンツの開発	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“な”体験(仮想体験)】 (1)世界遺産「伊勢堂岱遺跡のXR化」(北秋田市) ①バーチャル体験コンテンツ(展示室内に常設) 【リアル“を”体験(現実体験)】 (1)縄文の暮らしや文化の体験(北秋田市) ①北秋田市縄文まつり」の開催(9/14) ・内容:勾玉づくりや土器・土偶づくり、縄文料理体験等(参加者数:2,045名)	B	◎リアルイベントである縄文まつりの来訪者数は著しい増加傾向にある。 →バーチャルな体験を活用しながら、誘客促進に向けた取組をさらに進める。
3	キラーコンテンツの「秋田犬」を活用したアニメルツーリズムの推進	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 (1)ハチ公生誕100年プロジェクト(大館市) 令和5年度に生まれた繋がりを継続していくものとするための取組みの1つとして、第2回大館うたの日を開催した。 ・第2回大館うたの日(8/11 集客1,000人) (2)秋田犬とのふれあい体験をアクティビティとして商品化(秋田犬ツーリズム) 秋田犬の里におけるふれあい体験のニーズが高いという声を受け、ふれあい体験サービスを試験的に実施した。	B	◎ハチ公に関連した事業について、継続して取り組んでいく必要がある。 →令和6年度に引き続き、8月11日に第3回大館うたの日を開催し、ハチ公に関連した事業を継続していく。 ◎秋田犬への負担を考慮して、参加人数の上限などを設ける必要がある。 →販売開始後も随時調整、見直していく。 ◎「秋田犬の里」における体験の本格稼働に向けて調整。 →同施設内にてふれあい体験のニーズが高いことが確認できたため、常設の体験コンテンツとして本格稼働することを目指し、関係各所と調整を行っていく。
4	”奥秋田”を体感できるアクティビティの提供	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 (1)森吉山阿仁スキー場関連(北秋田市) ・樹氷教室(参加者数:619名) ・ピステンツアー体験(参加者数:32名) ・夜の樹氷観賞会(参加者数:110名) ・自然観察会 全9回中2回中止(参加者数:121名) (2)SUP・カヤック体験(北秋田市) R4年度事業でガイド資格を取得した方々が、モンベルの支援を受けながら、モンベル・アウトドア・チャレンジを実施。(参加者数:22名) (3)野遊びSDGsの推進(大館市) 五色湖エリアでの施設整備や体験メニューの検討。 (商品設計会議・体制整備会議7回、報告会等3回、ツアー受け入れ実績1回) (4)自転車をはじめとしたスポーツツーリズム(北秋田地域振興局) 秋田内陸線沿線を巡るサイクルマップの作成及び管内観光施設等への配布。 (5)「奥秋田」大館の食・歴史・産業コンテンツ開発(秋田犬ツーリズム) 野遊びSDGs事業と連携し、田代名産たけのこのブランド価値向上を目的とした検討会を開催したほか、きりたんぼと比内地鶏をアレンジした新たなグルメ「taco穂」を地元飲食業者と共同開発。サイクリングイベントやタイのインセンティブツアー等でお客様に対して提供した。新グルメ「taco穂」については一定のサポートは終了し事業者にて自走。	C	◎樹氷教室については、温暖化の影響により実験用水が凍らない問題が発生。またオーバーツーリズムにより、接客対応がおろそかになるなど、人手不足が課題となっている。 →スタッフが行っている樹氷教室をデジタル化し、スマホ等で閲覧可能にする。また案内人やスタッフの負担軽減に向けて、入場規制・価格調整・時間帯分散などについて検討していきたい。 ◎森吉山の自然体験について、ガイド資格取得者により、日本レクリエーションカヌー協会(JRCA)公認団体「森吉山パドルクラブ」が設立され、モンベルホームページでの販売が開始される等、受け入れ体制の構築へ繋がった。また、団体設立により、継続的にモンベル・アウトドア・チャレンジの開催が可能となった。 →まだ認知度が低いため、情報発信等により認知向上、誘客拡大が課題となっている。 ◎パートナーとして想定していた企業の撤退により、五色湖エリアにおける施設整備の構想は一旦白紙となった。一方でソフト事業については、地域資源やプレーヤーの掘り起こしによりアクティビティや物産品等の商品化により、インバウンドツアーの受け入れに成功。満足度の高い雪遊びフィールドをオーダーメイドの旅行商品として形にできた。 →今後、施設整備に関して、検討を重ねるとともに、ソフト事業の充実を図っていく。 ◎サイクルツーリズムの推進について、地域が一体となって進める必要がある。 →管内の観光施設等へサイクルラックを設置し、サイクリストの受け入れ態勢の整備を図る。 ◎田代名産たけのこに関しては原材料確保に大きな課題 →原因は収穫の担い手の不足であることから、収穫体験などと合わせた食のコンテンツ開発について事業者と調整していく。

山本地域 【目指す姿】世界自然遺産「白神山地」に代表される “本物の大自然”と“人”にやさしいサステナブルな観光地域づくり

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	自然保護と観光振興の両立に向けた白神が有する価値の地元理解促進と地域ブランドの確立		(1)DMO月次会議への参加・課題共有 DMOあきた白神ツーリズムと、白神山地に関連する取組や課題などを共有し、地域ブランド確立について検討や協議を継続。 (2)白神ブランド確立に向けた取組の実施 ①白神山地及び周辺地域をテーマにした「あきた白神観光フォトコンテスト」の実施。(5月～2月 応募580件) ②SNS(Instagram、Facebook)で白神山地の情報を多角的に発信。 ③5年度に作成した白神山地と屋久島の森・景観・水・生き物に焦点を当てた動画をYoutubeで配信、あきた白神認定ガイドの紹介を合わせ、両地域への誘客とガイド活用につなげた。	B	◎白神山地周辺のSDGsに関連する観光資源(洋上風力発電や縄文遺跡群など)の価値を十分に活かし切れていない。 →洋上風力発電や縄文遺跡群などと連携した取組を実施し、広域的に白神ブランドの確立を目指す。 →白神の自然や地域資源などをテーマとしたフォトコンテストを開催し誘客を図る。 ◎令和6・7年度、県道西目屋二ツ井線の道路防災工事に伴い、紅葉時期の10月を除き岳岱自然観察教育林方面が全面通行止めになっている。 →白神山地周辺地域(白神山地の麓)で季節ごとに楽しめる体験型観光コンテンツの造成・発信に取り組む。通行止解除後、山の自然と周辺を連携して楽しめるよう売り込みを図る。 →白神山地周辺地域の情報や写真・動画をinstagram、Facebookやホームページなどで発信していく。
2	環境と人にやさしい受入体制の充実	(1)地域認証制度の創設によるエコフレンドリー(自然に優しい)な取組の推進 (2)エコカーのレンタル・送迎拠点の整備 (3)初心者でも手軽に自然体験アクティビティを楽しめるグッズレンタルの整備	(1)地域認証制度の創設によるエコフレンドリー(自然に優しい)な取組の推進 ①能代山本地域の小中学生に対し、ジュニアガイド育成の取り組みを進めた(藤里町) 藤里町環境学習 7/26,31,8/2,7,9(5回、5名参加) 八峰町は実施可能性を調整し、7年度から実施することにした。 (2)エコカーのレンタル・送迎の拠点整備 ①白神山地周辺のサイクルコースを設定し、サイクルマップを2000部作成、イベントや観光案内所で配付した。 (3)グッズレンタルの整備・予約システムの導入(あきた白神ツーリズム、管内観光協会) ①体験型コンテンツのOTA販売を導入。(ActivityJapan、KKday、アンビューなど)	C	◎白神山地が現状では教育旅行の受け入れ先となっていないなど、県北エリアが有するSDGsのポテンシャルを活かし切れていない。 →環境学習は、藤里・八峰両町教育委員会や小中学校の教育現場、地元ガイドと協議を進め、プログラム内容を構築していく。 ◎レンタカーのハイブリッド車導入は進んでいるが、EV車に関して価格や充電スポット等課題が多く、積極的な活用の機運がない。 →現状に合ったハイブリッド車のレンタカー利用でビジネス・観光利用を進めていく。 →より一層環境に配慮した移動手段として、サイクルツーリズムを推進していくため、管内24コースを設定し、コースマップ及びサイト誘導カードを作成、サイクルイベント配布や道の駅配置で周知する。 →県北3振興局や青森県環白神エリアと連携した広域ルートでの楽しみ方を進めていく。 ◎グッズレンタル導入はサイズ・数量調整の課題や需要把握など多くの課題があり、導入に向けて引き続き検討を要する。 →インバウンド客の需要はあるものの利用者数が少なく導入が進まない。 →OTA販売の推進については新たな体験コンテンツを地域と造成するほか、様々な可能性を探るためセミナーや勉強会を開催し、OTAサイト事業者との連携を進めていく。
3	「本物の大自然」と「地元住民との交流」を核とした誘客の拡大	(1)あこがれの場所「白神」で楽しむ多様な体験メニューづくり (2)風土・暮らしの観光コンテンツ化 (3)DMOなどとの連携によるプロモーション	(1)「白神」で楽しむ多様な体験メニューづくり ①ブナの学校運営協議会と共同で新たな観光コンテンツを組み合わせたツアーを造成し、モニターツアーを実施。(6、7、8、10月) ②能代木材産業連合会との連携により、環境にやさしい木材コンテンツを造成し、組子細工体験を商品化、OTAサイトで販売、イベントやFAMツアーでPR。 (2)地域団体が主催した関連イベントに参加して情報収集・検討を実施。 (3)DMOなどとの連携によるプロモーション ①ブナの学校運営協議会を通じたJR・青森県との共同プロモーションの実施。(東京での講座:6月、ツアー:8月) ②さくらウィークinふじさと(4/20-28)、白神のめぐみフェスティバル(10/26-27)の開催(藤里町) ③「留山森の音(ね)物語」留山を会場に音楽会の開催。(8/11、9/14 計2回、25名参加)(八峰町) ④「北秋田市縄文まつり」での白神山地周辺地域体験コンテンツPR(9/14)	B	◎白神山地が本来有する価値である「人と自然との関わり、文化、風土」について、積極的な活用が見られず、隣接する文化遺産との連携も不足している。 →世界自然遺産と縄文文化を組み合わせ「ブナ常文化」を軸に観光コンテンツを造成。 →鉄道利用、二次アクセスと新たなコンテンツを結んだコースを提案・商品化を進める。 →造成した木材体験コンテンツを管内観光事業者に広め、OTA販売等で体験者数を増やしていく。 ◎白神山地への来訪者数は減少し続けており、関係者が一体となったPRが不可欠。 →白神山地への誘客促進のため、地域や本庁関係課と連携して、首都圏のほか、まだ白神周辺を訪問したことのない県内や隣県を中心にPRしていく。 →白神山地と屋久島の自然の魅力を比較した映像を活用し、自然に魅力を感じる層をターゲットに誘客を図る。 →ブナの学校運営協議会を通じて鉄道利用者を中心に情報発信、プロモーション、現地ツアーを行う。 →環白神エコツーリズム推進協議会が進める「白神検定」と連携し、新たな層の掘り起こし・誘客に努める。

秋田地域 【目指す姿】大自然を満喫するアクティビティの充実と日常生活の魅力発信による”生活観光”の推進

プロジェクトの柱		取組方針	令和６年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	男鹿の海・山で楽しむ、アクティビティなどの充実・提供	(1)「アクティビティ」の充実による誘客の推進 (2)男鹿ならではの「食」の充実による誘客の推進 (3)多様な「宿泊」の展開	(1)「アクティビティ」の充実(男鹿市) ①E-bike等を活用したスポーツツーリズムやナマハゲ文化を軸としたナマハゲ文化ツーリズムを推進。 ②遊覧船を活用した男鹿半島西海岸の優良なコンテンツの磨き上げやPRを実施。 (2)男鹿ならではの「食」の充実 ①男鹿水族館GAOで提供されるメニューを地元高校生が開発。 ②商工会による地元食材を活用したイベントの開催。 (3)多様な「宿泊」の展開 ①男鹿駅前をはじめ、市街地における複数の宿泊施設新設に向けた動きなど、多様な宿泊ニーズへの対応が進展している。	C	◎季節ごとのアクティビティや体験プログラム等について、継続的に周知していく必要がある。 →秋田管内の体験型観光プログラムの情報をまとめたガイドブックの内容を更新したうえで増刷し、観光施設や宿泊施設等に設置する。また、関係機関と連携し、周知や支援を実施する。
2	「五城目朝市」から広がる暮らしを楽しむ”生活観光”の推進	(1)「暮らしから染み出てくる魅力のおすそ分け」をキーワードにした「生活観光」の推進 (2)「生活観光」をきっかけとした関係人口等の拡大と地域の活性化	(1)(2)生活観光の推進 ・朝市plus+を含む朝市のPRにより、出店者と買い物客の交流の場づくりを推進した(五城目町)。	C	◎五城目朝市の魅力を認知してもらうための継続的な取組が必要である →民間事業者が五城目朝市など歴史的資源を活用した観光まちづくりを推進する動きがあることから、引き続き関係機関と連携の上、事業者の支援等を行っていく。 →令和7年11月2日～3日に五城目町を会場とした「全国朝市サミット」が、全国約15の朝市団体が集まり開催する予定となっており、これらの機会を活用しながら知名度の向上と関係人口の拡大を目指す。
3	交通結節点における観光情報の発信強化によるプレジャー需要等の開拓		(1)観光情報の発信強化(秋田地域振興局) ・秋田管内の観光情報を掲載したガイドブック『ぷちたびあきた』の増刷と、体験プログラム等の情報をまとめたガイドブック『あきたまるごと体験BOOK』を新たに作成し、管内市町村の観光関連施設や県外事務所に設置した。 ・Instagramフォトコンテストを開催し、秋田管内の多様な魅力を発信した。	C	◎多様化する観光客のニーズへの対応が必要である。 →『あきたまるごと体験BOOK』を引き続き作成し、多様なプレジャー需要に対応する。 →Instagramフォトコンテストを冬季に開催し、閑散期である冬の秋田の魅力を発信し、冬季誘客を促進する。また、昨年度に応募のあった作品の展示会を実施する。

由利地域 【目指す姿】人の営みと自然の営みが共存・融合・調和する鳥海エリア

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	鳥海山ブランド力を生かした観光振興	(1)由利地域における域内観光の振興と交流人口の拡大 (2)由利・庄内両地域の交流促進と他圏域からの誘客促進による交流人口の拡大	(1)由利地域における域内観光の推進を図る体制(由利地域観光推進機構) ①由利本荘市、にかほ市、管内観光事業者等と連携し、東北各県、新潟県及び東京都旅行業協会に加盟している旅行事業者等に観光PR資料を送付 ②管内周遊イベントの実施 ・にかほんじょうはるめぐりスタンプラリー2024(期間4/6～5/19、応募者964人) ・由利地域道の駅バトル(期間9/1～10/31、実食数1,426、投票数1,014) ③由利地域の2市を周遊する旅行商品への助成事業を実施(助成実績:7社の15商品) ④Instagramを活用し、由利地域の魅力をテーマとした写真投稿キャンペーンを開催 ・(夏)期間7/1～9/30 応募222件、(冬)期間12/1～2/28 応募176件 ⑤観光誘客イベント等の実施主体に対する助成(春～秋季のイベント:2件、冬季のイベント:2件) ⑥観光パンフレット「ゆり旅レシビ」改訂・増刷(3,000部) (2)環鳥海地域における広域的な観光推進を図る体制(環鳥海連携事業実行委員会) ※環鳥海地域:秋田県由利本荘市・にかほ市、山形県酒田市・遊佐町の3市1町。 ※各種事業は山形県の庄内総合支庁と連携して実施。 ①広域周遊観光イベントの実施 ・まるっと鳥海わくわくキャンペーンスタンプラリー(7/1～10/31、応募者1,216人) ②山形県と連携した環鳥海共同プロモーションの実施 ・新潟駅の駅たびコンシェルジュでのPRの実施(9/7) ・「ハイウェイフェスタとうほく」への出展(9/21～22、会場:仙台市、延べ来場者約1万3千人) ・イオン仙台店での観光PRの実施(12/1) ③鳥海山をテーマとしたInstagram投稿キャンペーンの実施(7/1～12/31、応募590件) ④環鳥海地域の日本酒キャンペーンの実施(12/23～2/28、応募者134人)	C	◎鳥海山自体の知名度は高いが、その周辺の「由利地域」や「環鳥海地域」の認知度は高くない。また冬季の話題や観光コンテンツが少ない。 →ローカルな地域名のみでは他県の方には伝わりづらいため、秋田県や山形県の地域であることを強調したり、名所や名物と併せた情報発信により、認知度を高めていく。 →冬季の周遊イベントの実施するとともに、冬季の観光コンテンツについて情報発信を行う。
2	各種アクティビティ等の充実による誘客の促進	(1)アウトドア・アクティビティの充実 (2)スポーツを通じた交流人口の拡大 (3)観光コンテンツとしての由利高原鉄道の充実	(1)アウトドア・アクティビティの充実 ①にかほ市アウトドア拠点施設(モンベル直営店併設)の整備等(にかほ市) ・「ニカホ アウトドア ベース」という名称で6/28にオープン。 ②Instagramを活用し、由利地域の魅力をテーマとした写真投稿キャンペーンを開催【再掲】 ・(夏)期間7/1～9/30 応募272件、(冬)期間12/1～2/28 応募176件 ③モンベルと連携したアウトドアイベントの開催(由利本荘市・にかほ市) ・由利本荘市アウトドアフェス(9/29、法体園地キャンプ場) ・ニカホアウトドアベースセミナー(全8回) ④観光事業者向けE-bike試乗会の開催(由利地域観光推進機構) ・9/27実施、6名参加 (2)スポーツを通じた交流人口の拡大 ①ナイスアリーナスポーツ合宿・大会等の誘致(由利本荘市) ・中央大学ソングリーディング部合宿(9/8～11) ・Bリーグ:秋田ノーザンハピネッツVS名古屋ダイヤモンドドルフィンズ(2/8～9) 等 (3)観光コンテンツとしての由利高原鉄道の充実 ①イベント列車の運行(由利高原鉄道) ・「こいのぼり列車」(4/20～5/5)、「たなばた列車」(6/22～7/7)、「忘年会列車」(12/7)、「クリスマス列車」(12/14～25)、「おひなっこ列車」(3/1～3/31)など、季節のイベントや行事に合わせて運行。 ・12/21は、市内のバー等と連携し、矢島駅待合室でお酒や生演奏を楽しめるクリスマスパーティを開催。 ・イタリアンのランチが車内で楽しめる「レストラン列車 affeto treno」の運行(5月、6月、7月、9月、10月、11月) ②由利鉄運転体験(由利高原鉄道 ほか) ・現役で運行中の列車の運転体験を実施(7/14、8/10) ③「友愛鉄道」記念乗車券の販売(由利高原鉄道 ほか) ・秋田県の第三セクター鉄道会社と東急グループの鉄道会社(計4社)の合同記念乗車券販売	C	◎日本海東北自動車道の整備が進むことで由利地域へのアクセス向上が見込まれる一方、素通利につながる恐れもある。そのため、当地域への立ち寄りにつながるよう、ニカホアウトドアベース等とも連携して管内のアクティビティ、コンテンツ等の周知や利活用を図っていく必要がある。 →管内の事業者や団体等向けに、アクティビティの体験会を引き続き実施する。また、地域の観光資源と組み合わせた誘客を行っている由利高原鉄道とは、情報発信等でも連携しながら利用促進を図っていく。

3	「エコ」「ジオ」「環境」等を切り口としたサステナブルツーリズムの推進	(1)鳥海ダムを活用した観光コンテンツの開発 (2)ジオパークの活用による観光産業の振興	(1)鳥海ダムを活用した観光コンテンツの開発 ①ダム建設現場見学のための展望台設置(鳥海ダム工事事務所) ・6月上旬～11月上旬 ・建設現場見学会の参加:554人 ②ダム工事見学周遊ツアーの実施(由利本荘市、由利高原鉄道) ・7月～10月、161人参加 (2)ジオパークの活用による観光産業の振興 ①ジオサイト等における観察・体験ツアー等の実施(由利本荘市、にかほ市、にかほ市観光協会 等) ・中島台・獅子ヶ鼻湿原:GGトレッキング(6/5、6/23)、 紅葉ギンガトレッキング(10/24、10/27)、にかほdeスノートレッキング(巾山・冬師 等 1月～2月) ・鳥海山アーストレック(7/29、8/1) ②ジオパーク認定商品販売促進キャンペーンの実施(環鳥海連携事業実行委員会) ・12/7～2/28、応募者56人	C	◎専門知識を持たない一般の方にも、ダムやジオパーク等の魅力や価値を分かりやすく伝えていく必要がある。 →各団体等でガイドの育成を行っているほか、ガイド付きのツアーやアクティビティを実施しており、情報発信等で協力して、認知度向上と誘客促進を図っていく。 →ジオパーク等を活用したモデルコースの作成を行い、魅力の周知を図っていく。
---	------------------------------------	---	--	---	---

仙北地域 【目指す姿】アウトドア・アクティビティの聖地化とスノー&ナイト体験型観光の推進

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	田沢湖エリアや真木真屋エリア等を活用したアウトドア・体験型観光の推進	(1)大自然の魅力・恵みを全身で感じられる体験型コンテンツの造成・磨き上げ (2)乗り物を活用した自然満喫プランの推進 (3)ICT技術を活用した観光の推進	(1)大自然の魅力・恵みを全身で感じられる体験型コンテンツの造成・磨き上げ ①夏場のスキー場を活用した観光コンテンツの開発(仙北地域振興局) ・大台スキー場で黄桜まつりに合わせて体験企画を実施。(5/3ヨガ体験、テントサウナ) ・大台スキー場で旅行エージェントモニターツアーを実施。(10/31パラグライダー、ドローン体験) ②夏場のスキー場を活用した観光コンテンツの開発(大仙市観光物産協会) ・大仙市、スポーツコミッション秋田と共催で、ゲレンデを駆け上るゲレンデラン及びミニBBQを開催。56人参加(11/4) ③夏場のスキー場の賑わいづくり(仙北地域振興局) ・ミハラステラス付近に、コスモスのお花畑を制作。 ④デジタルパンフレットの作成(仙北地域振興局) ・SNSや美の国あきたネットで公開。大曲の花火における物産展等のイベントにおいて周知。 ⑤親子トレッキング教室(大仙市) ・10/19開催予定で4組13人申込あったが、天候不良のため中止。 ⑥春～秋に山登り教室(大仙市) ・5～10月で6回開催し、計103人参加。主な対象は市民。(市外の方も参加可能) ⑦大仙太田ハーフマラソン(大仙市) 10/13にハーフの部・10キロの部・5キロの部・2キロの部の4部門で開催し、600人が参加。 ⑧リゾート推進事業の実施(仙北市) ・仙北市のリゾート推進に関する活動に取り組む地域おこし協力隊員が主となり、仙北市の景観価値を活用したリゾート推進モニターツアー事業を実施。(計5回実施し、10名参加) ⑨グリーンツーリズムブラッシュアップ事業の実施(仙北市) ・市内農家民宿等20軒のPR動画(施設、オーナーインタビュー動画各20本)を作成 ⑩トライアスロン合宿誘致事業の実施(仙北市) ・首都圏のトライアスロン関係者へセールス活動を実施、トライアスリート7名が田沢湖で合宿を行った。観光情報を盛り込んだコースマップ作成。 ⑪秋田アウトドアベース主催「TAZAWAKO BLUE WEEK 2024」の開催(仙北市) ・アクティビティ提供事業者が中心となって構成された「秋田アウトドアベース」主催で、アウトドア・アクティビティ体験イベントを開催。(仙北市後援) ・開催日：7/1～7/7 (メインイベント7/6～7/7)※7/7は天候不良により中止となった ・7/1～7/6は参加者に湖畔のクリーンアップ活動を呼びかけ。7/6は屋台の出店や特別なアクティビティを提供。 ⑫砂防堰堤を活用したボルダリング施設の整備(仙北市) ・4月下旬～11月中旬で実施し、利用者数は9団体、310人 ⑬田沢湖畔の利用適正化に向けた意見交換等の実施(仙北市、田沢湖・角館観光協会、振興局ほか) ・8/6に田沢湖湖面利用適正化推進協議会開催 ⑭アウトドアアクティビティの開催(あきた美郷づくり株式会社) ・9/20 星空観賞会(ワクアス敷地) 23名 ・10/26 カヌー体験会(仏沢ため池) 5名 ・1/25 スノーシュー体験(仏沢ため池周辺) ⑮清水の学習・案内所 水の休み場リニューアルオープン(R7.4.1～R711.30)(あきた美郷づくり株式会社) ・願いごとシール利用枚数2,792枚→2/15竹うち開催時お炊き上げ ⑯インバウンドに関するモニターツアーの実施(あきた美郷づくり株式会社) ・9/21【夏版】籠づくり体験、流しそうめん体験、水ようかんづくり体験など 4名 ・1/6～1/7【冬版】スノーシュー体験、伝統郷土料理作り体験、パッチワーク体験 5名 ⑰第1回美郷町グライダーカップの開催(あきた美郷づくり株式会社) ・10/26後三年スキー場にて小学生25名、大人10名参加 ・グリーンシーズンのスキー場を活用した観光コンテンツの可能性調査業務 ⑱レンタサイクル事業(あきた美郷づくり株式会社) ・4月～11月 町内4回箇所(道の駅美郷、名水市場湧太郎、六郷温泉あったか山、雁の里山本公園) ⑲ネイチャーガイドの運用(あきた美郷づくり株式会社) ・登山、トレッキング、まち歩きと湧水めぐり、星空観賞、カヌー・カヤック、スノーシュートレッキング ⑳MOC(モンベル・アウトドア・チャレンジ)登山イベントの実施(美郷町) ・計4回実施し、28人参加。 ㉑観光ガイドの育成(美郷町) ・美郷町ネイチャーガイド認定者向けスキルアップ講習会の実施。(2回開催、23人参加) (3)ICT技術を活用した観光の推進 ①角館オンデマンド交通「よぶのる角館」運行(仙北市) ・通年運行を行い、利用者数は約12,300人(地元約4,600人、観光客約7,700人) ②二次交通に関する実証実験(ミズモシャトルの運行)(美郷町) ・JR大曲駅から美郷町内の観光地・観光施設への新たな二次交通の確保による利便性向上を目指した実証事業を実施。(期間：4/30～8/30、予約件数61件、利用人数69人)	C	◎田沢湖畔付近はアウトドア・アクティビティが充実しているが、その他の地域ではまだまだコンテンツが少なく、認知度も低い。 →関係機関と協力しながら、モニターツアーの実施等、新たなコンテンツの造成及び商品化に向けた取組を行う。 →昨年度までに作成した動画やパンフレット、SNSなどを活用して情報発信を行い、認知度向上に繋げる。

2	冬季及び夜の観光地としての魅力強化	(1)スノー体験型コンテンツの強化 ①ヤマノサウナの運営(あきた美郷づくり株式会社) ・通年営業。予約91件。 ②出張サウナテント事業(大仙市観光物産協会) ・地域おこし協力隊とともに太田奥羽グランドゴルフ場にてロケーションサウナ「ロケサー」を実施。(2/15) (2)冬まつりや酒蔵等の地域資源を活用したスノーアクティビティの集約 ①冬まつりスタンプラリーの実施(仙北地域振興局) ・応募者数:139名 ②雫石・田沢湖・角館地域による誘客促進(振興局、仙北市、田沢湖・角館観光協会ほか) ・周遊ガイド制作(1万部) ・スタンプラリー実施(3エリア合計2,477件(雫石576件、田沢湖408件、角館1,493件)) ③角館・武家屋敷通りで秋田の日本酒を学ぶ体験(田沢湖・角館観光協会) ・酒屋さんのお話を聞きながら、地酒とおつまみのペアリング料理を楽しむコンテンツを実施。(体験者14名) ④刈和野の大綱引きを活用した『文化観光プレミアムツアー』事業(大仙市・大仙市観光物産協会) ・2/10～2/11の1泊2日のツアーを開催。3組6人参加。 ⑤発酵の歴史から知る発酵食体験(田沢湖・角館観光協会) ・秋田の「発酵文化」を学びながら、発酵食づくりを体験できるコンテンツを実施。(体験者5名) ⑥火振りかまくら特別体験(田沢湖・角館観光協会) ・小正月行事「火振りかまくら」の体験をとおして地域の文化や歴史を学ぶコンテンツを実施。(体験者19名) ⑦冬季文化観光プレミアムツアーの実施(大仙市観光物産協会) ・国登録有形文化財の宿に泊まり冬の小正月行事をめぐるモニターツアーを実施(2/10～2/11)、6人参加	C	◎冬季は観光客が落ちこむ。 →隣県と連携したスタンプラリーの実施や、冬まつりと絡めたスタンプラリーの実施など、冬期間に管内及び周辺エリアを周遊してもらうための取組を継続的に行い、冬季の誘客に繋げる。
---	-------------------	--	---	---

平鹿地域 【目指す姿】魅力ある地域資源を活かした横手ファンの獲得

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	地域の食文化や歴史に触れる体験型観光の推進	(1)体験メニューの充実/触れて学べるツーリズムの推進 (2)特色ある食文化の情報発信の強化	(1)体験型観光コンテンツの造成 ①観光庁補助事業を活用し、横手の食文化や歴史に触れる体験型観光コンテンツを造成(実施主体:横手市) 「あなたも蔵人～発酵の街秋田県横手市で自からお酒を仕込み味わう特別体験」 (事業主体:横手市観光推進機構 体験受入先:(株)大納川、(株)杓) ・酒米の収穫から仕込み、醸造管理、上槽しぼりまで複数回の体験プログラムとして商品化 ②旧片野家住宅(国登録有形文化財)を活用した雪国体験コンテンツを造成(実施主体:横手市) ・旧片野家住宅の敷地内にかまくら2基、ミニかまくらを設置。歴史ある空間で雪国体験ができるコンテンツを造成。 ・「一般公開デー」(1/24-2/9)では、かまくら体験、甘酒ふるまいを実施し、7日間で県内外から555人の来場があった。 ・阪急交通社のツアー行程に組み込んでいただき、かまくら体験、甘酒ふるまい、横手やきそば・いものこ汁の提供を行った。2/6-8の3日間で九州・関西・中部・関東エリアから207人の来場があり、好評を得た。 (2)イベントを通じた特色ある食文化の情報発信 ①横手やきそばフェスティバル2024(実施主体:横手やきそばフェスティバル実行委員会) ・9/28-29秋田ふるさと村で開催し、8,283人が参加。 ・横手やきそば暖簾会から4店舗が出展し、各店自慢の横手やきそばの食べ比べを行った。 ・横手やきそばアレンジレシピの募集に120件の応募があり、採用された4作品を数量限定で販売。 ・横手やきそば手作り体験ブースでは、54組が体験した。 ②横手盆地発酵交換会(実施主体:横手市) ・10/12-13で開催し、10,822人が参加。 (会場:横手市生涯学習館Ao-na、よこてイーストにぎわい広場、Y2ぶらざ) ・発酵マルシェ(買って楽しむ:盆地内の発酵食品事業者による物産展。日本酒に合うおつまみも取り揃え) ・発酵グルメ屋台(食べて楽しむ:発酵食品や地ビールなどの出展販売、特製「味噌やきそば」の販売) ・日本酒の試飲・販売(飲んで楽しむ:盆地内の酒蔵の日本酒をあれこれ飲み比べ) ・発酵特別講演「酒のルーツとこうじ」 講師:株式会社秋田今野商店 代表取締役社長 今野 宏 氏 ・発酵ミュージアム(学んで楽しむ:盆地内の酒蔵の歴史や発酵文化の情報をパネルで展示。顕微鏡を使ったこうじ菌観察コーナーや利き味噌体験など。) ③あきたまるごと食の祭典(実施主体:横手市観光協会) ・11/2-4秋田ふるさと村で開催し、来場者数は31,000人。	B	(1) ◎単年、単発のコンテンツ造成に終わり、商品として販促につながるブラッシュアップやマーケティング、情報発信が図られていない。 →旧片野家住宅の雪国体験コンテンツは、冬季誘客のキラーコンテンツとして、販売元との連携強化とハード面の整備を行いながら、旅行会社との商談を進める。 (2) ◎イベントを通じた情報発信はできているものの、既に認知度が高いものに偏っており、新たな集客・誘客につながる食文化の発信がなされていない。 →①文化庁が認定する100年フード「横手やきそば」が、新たなフェーズとして、その特徴的な味と各店舗が守る味を継承しながら、いつまでも市民に愛され続けるための取組を行っていくことで、他方へ発信強化につなげていく。 →②発酵食を活用した体験コンテンツは、「発酵のまち」としての発信を強化することで、新たな酒蔵体験などをしっかり商用ベースに乗せ、ブランディングにつなげていく。 →③食文化は、その歴史やストーリーとともに、視覚的な魅力がSNS等でも訴求することから、画像の出し方に工夫を凝らしていく。
2	マンガや内蔵の文化保存と継承が息づく増田エリアの回遊促進	(1)増田エリア内のアクセス向上/回遊促進 (2)まんが美術館と増田のまちなみが融合する取組 (3)まちなみ散策促進	(1)増田エリア内のアクセス向上/回遊促進 ①横手市オンデマンド空港送迎サービス「よこてWARP」の運行(実施主体:横手市) ・横手市への2次アクセス向上のため、空路利用者を対象に秋田空港と横手市を結ぶ送迎車(定員7名)を運行。令和6年度末時点での利用者数は2,116人(稼働期間7/18-3/31) ②タクシーを活用した利便性向上のための情報発信(実施主体:横手市) ・横手の魅力を詰め込んだラッピングタクシーの運行。(タクシー事業者数:5) ③まんが美術館と町並み回遊のための相互観光情報提供 ④増田の町並みへのストリートWi-Fiの整備・保守(実施主体:横手市) ⑤デジタルサイネージ(増田地域2箇所)を活用した観光情報の発信(実施主体:横手市) ⑥漫画コンテンツを用いた街歩きアプリ「ON THE TRIP」の利用促進 (2)まんが美術館と増田のまちなみが融合する取組 ①村上もとか原画収蔵記念展(実施主体:横手市増田まんが美術館) ・企画展と連動した増田の町並みとまんが美術館をめぐるスタンプラリーの実施(開催期間4/1~5/26) ・企画展総入場者数1,692人、スタンプラリー参加者数1,529人 ②『EGAKU -draw the song-』展(実施主体:横手市増田まんが美術館) ・企画展と連動した増田の町並みとまんが美術館を巡るスタンプラリーを実施(開催期間6/29-8/25) ・企画展総入場者数2,791人、スタンプラリー参加者数2,382人 ③あきづき空太 デビュー20周年記念「赤髪の白雪姫」原画展(実施主体:横手市増田まんが美術館) ・企画展と連動した増田の町並みとまんが美術館をめぐるスタンプラリーを実施(開催期間9/7-11/4) ・企画展総入場者数3,805人、スタンプラリー参加者数3,375人 (3)まちなみ散策促進 ①地域通訳案内士の育成(実施主体:横手市) ・観光庁長官の同意を得て、地域通訳案内士育成等計画を策定。 ・語学、ホスピタリティ、増田エリアを始めとした地域観光等に関する研修を実施。 ・令和6年度は新たに中国語の地域通訳案内士を育成(研修修了者6名、そのうち認定者3名) ・令和6年度末時点での英語の地域通訳案内士は14名。	C	(1) ◎回遊性を高めるための仕組みづくりが必要である。 →回遊促進のため、観光施設や発酵食関連施設(くらを、日の丸酒造)、カフェなどのまち歩きマップを作成し、既存のストリートWi-Fiを活用したデジタルマップの運用も検討する。 (2) ◎増田エリア内は、基本的にはまち歩きで楽しめる面観光が可能なエリアとなっているが、まんが美術館と町並みが訴求する客層に相違があり、相互に往来させる取組が必要である。 →まんが美術館の企画展と連動した町並みの企画(店舗でのグッズ販売、カフェメニューの提供、スタンプラリーイベント等)を行う。 (3) ◎来訪者がWEBからの情報収集やSNSでの情報発信等の利便性を高めるため、ストリートWi-Fiを整備しているものの、利用者が伸び悩む状況にある。 →市有施設(ほたる、蔵の駅)に加え、外国人も含め来訪者が多い、内蔵の家屋やカフェ等で積極的に周知を図る。

3	スポーツと融合した誘客促進と気軽に滞在できる環境の充実	(1)スポーツイベントを通じた誘客促進 (2)多様なニーズに対応した施設の整備	(1)スポーツイベントを通じた誘客促進 ①サイクリングイベント「旬感よこてフルーツ&米ロード かまくら・ライド2024」の開催(実施主体:かまくら・ライド実行委員会) ・9/15に開催し、参加者400人。 ・各エイドでは横手やきそば、ババヘラアイス、洋ナシ&ぶどうジュースなど、地域にちなんだ食事を提供。 (2)多様なニーズに対応した施設の整備 ①ワーケーションの受入強化、インバウンド対応のための施設改修等の実施(観光庁補助事業) ・令和5年度に観光庁補助事業を活用して施設改修した宿泊施設のうち、Stay & Work HirajoとHOTEL LADIES PLAZA YOKOTE(女性専用カプセルホテル)が令和6年度から営業を開始した。	C	(1) ◎各種スポーツイベントは依頼があったイベントのみに連携している。 →年間開催予定の情報収集に努め、積極的な連携を図っていく(重複日程を防ぐ調整、観光イベントでの周知・参加促進)。 (2) ◎多様なニーズに応えきれていない。 →新横手市立体育館の竣工(R8.3予定)により、多種多様な催事ニーズが期待でき、またアクセスの良い立地と宿泊施設へも近いことから、この条件を活用して、お土産買い、飲食、宿泊と消費額の拡大施策に取り組むため、各種関係者と連携を図っていく。
---	-----------------------------	--	---	---	---

雄勝地域 【目指す姿】雄勝地域の人の魅力で、リピーターを生み出す

プロジェクトの柱		取組方針	令和6年度の主な取組・成果	総合評価※	課題・今後の対応方針
1	地元の人「顔が見える観光マップ」を通じた「名物人」との交流による「ここでしか味わえない雄勝」の体験	(1)魅力的な観光マップの制作と活用 (2)地域観光の情報発信力向上 (3)ガイド人材の育成・スキルの向上	(1)魅力的な観光マップの制作と活用 顔が見える観光マップ配布(雄勝地域振興局) 令和5年度に制作した観光マップを印刷し、西馬音内盆踊り会場で配布 8/16～18 (2)地域観光の情報発信力向上 ①湯沢雄勝広域観光推進機構Facebookでの情報発信事業 フォロワー数(R7.3.31時点):3,495人 ②「東北のへそ」Instagramフォトコンテスト 地域の魅力発掘・コンテンツの掘り起こし 春:4/15～5/31 夏:7/15～8/31 秋:10/15～11/30 冬:1/15～2/28 フォロワー数(R7.3.31時点):3,028人 (3)ガイド人材の育成・スキルの向上 ①ワンコインで楽しむまち歩き・山歩きの開催(湯沢市観光物産協会) 6/15・22・23・29、7/6・13、9/7・8・14・22・28、10/5・13・19・26、11/2 全16コース 延べ183名参加 ②東成瀬村まち歩き観光ガイド養成講座(東成瀬村観光物産協会・湯沢市観光物産協会) 9/17・24、10/1 計3回開催 延べ19名参加	B	◎新たな観光資源の発掘の継続と、観光コンテンツの魅力を伝える人材の育成が課題である。 → 成瀬ダム完成(R9年度予定)を見据え、西栗駒周辺の観光資源の発掘・磨き上げを推進する。 → SNSでの情報発信を強化し、認知度向上と誘客促進につなげる。 → ガイドの高齢化と将来の担い手不足に対応するため、幅広い世代に向けた魅力発信等により、新たな人材を育成する体制づくりを支援する。
2	「非日常」を体験する度に「レベルアップ(成長)」を実感する旅の提供による誘客の推進	(1)体験コンテンツの発掘・磨き上げ (2)インバウンド対応可能な人材の確保・育成	(1)体験コンテンツの発掘・磨き上げ ①雄勝平鹿インバウンドモニターツアーの実施(雄勝地域振興局・横手市・平鹿地域振興局) 10/28～29 1泊2日 参加人数9名(台湾) コース内容:秋田湯沢湯乃華芸妓舞鑑賞体験・川連漆器蒔絵体験、西馬音内盆踊り体験、そば打ち体験、りんごもぎ取り体験 等 ※令和7年度振り返りセミナーを横手市・平鹿地域振興局と連携し、11/21に開催予定。 ②仙人修行の実施(東成瀬村観光物産協会) 8/2～4 2泊3日 19名参加 断食、滝行、座禅、写経体験 等 ③スノーシュートレッキングと川連こけし絵付け体験(湯沢市観光物産協会) 1/25、2/5 16名参加 女滝沢森林道スノーシュー体験、川連こけしの絵付け体験、小安峡温泉入浴体験 等 (2)インバウンド対応可能な人材の確保・育成 ①インバウンド観光客向け中国語研修会の開催(湯沢市) 観光事業者を対象に、インバウンド観光客向け中国語研修会を開催。 6/25(湯沢会場)、6/26(皆瀬会場) 参加企業:計21社 参加者:計28人 中華圏の観光客動向、接客フレーズと発音練習、基本的な挨拶 等 ②台湾インバウンドセミナーの開催(湯沢市) JALふるさとアンバサダーGlobalによる受入環境調査の実施・結果報告、接客術 等 9/9午前・午後開催 参加企業・団体等:計35 参加者:計44人	B	◎体験コンテンツを効果的に組み合わせるなどにより、来訪者の心に残る旅を提供し、それがさらに次の旅行の動機づけとなって再び当地域への来訪へとつながる体制づくりを進める必要がある。 → モニターツアーで得られた課題(体験コンテンツの情報発信強化・磨き上げ、案内・説明の多言語対応の不足等)を関係事業者と共有し、解決に向けた意識も共有する。 ・関係機関との連携による、多様化するニーズの把握 ・既存の体験コンテンツの組み合わせや新たな体験価値創出の提案 → 関係機関が実施する受入環境整備のための講習会等について、効果的な実施に向け関係機関と引き続き調整し、誰もが安全かつ快適に滞在できる環境整備を目指す。